838
297
116

井坂
鳥居
關口

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

上野志抄出　此志全部六巻安永三年上野世良田人林権平義鄰所著

根岸信輔氏寄贈

安中城

安中氏ハ平姓餘五將軍維茂ノ裔ニ上州八家ノ一ナリ八家ノ小幡白倉安中倉賀ヲ西郡ノ四家トシ大胡山上桐生沼田ヲ東郡ノ四家トス

越前守春綱安中ヲ嫡子左近大夫廣盛ニ譲リテ松井田ノ城ニ隱居ス始ハ謙信ニ從ヒ永禄六年二月廿六日信玄ニ攻ラレテ廣盛降参ス後ニ滝川ニ附キ神流川ノ合戰ノ後小田原ニ從フ天正十八年安中氏滅ブ慶長中井伊兵部少輔直之ノ領トナル後水野備後守元綱二万石ニテ安中ノ故城ヲ賜フ元綱寛文四年十月廿六日隱居子息信濃守元知寛文四年領知没収セラル元和賢才ノ聞エアリ夫人嫉妬アリテ元知傷ニ家臣等元知乱心ノ様ニ言上ス依ヒ之家断絶ス

同六月堀田備中守正俊ニ賜フノ延宝九年ヨリ板倉
伊豫守重同元禄十五年ヨリ内藤丹波守政森
同山城守政重同金弟亦政苗寛延二年ヨリ板倉
佐渡守勝清云シ

松井田故城町ノ西新堀村ニアリ城地東西ヘ長ク山ノ山ノ北ニアリ

安中
松井中 越前守春綱コヽニ居ル永禄六年二月廿六日信玄
コレヲ攻ム春綱抵戦フ而後降ル信玄其兵士多
ク損ヲ悪リテ春綱ニ詰腹ヲ切シメテ小宮山丹後
守昌久友原與左衛勝重ヲ置ク勝頼滅ビテ
後小田原ヨリ大道寺駿河守政繁與フ天正十八年
二月前田上杉両將ノ為ニ攻ラル同十日直宗城開
渡シテ降ル

安中家略傳 中秋閑村全性寺蔵

人王八十七代
後嵯峨院 土御門帝第二皇子仁治三年壬寅三月六日即
位文永元年甲申二月十七日山陵御壽五十三
後嵯峨院第二皇子
宗尊親王 源氏一品中務卿征夷大將軍
治世十九年文永十一年己酉七月十日薨
惟康親王 文永三丙寅四月賜二品中納言征夷大將軍
治世二十四年正中二年乙丑十月十七日薨
惟基 二位惟康第子
忠明 二位文納言惟基二男
忠形 三位左金吾
重兼 従四位
重國 二位中納言

吉野帝和睦之後于夢中鸚鵡鳥来而告鳴重四郎後
四家臣新發田奥原五郎入道壽安退り此時改級二
十二代后

後重四郎二十二代末葉
出羽守忠親
入道而後了ハ號ス長享元年丁未四月越後四郎新発
田城ヨリ上野四郎井田小屋ニ住ス
旭渓院桂岩芳公庵主永正三年丙寅十二月十七日
問拄昌寺開基　斯云寿九十三下秋

後嵯峨院第一皇子
宗尊親王八代後胤上野四郎井田
小屋城主安中出羽守忠親
開基　旭渓院殿桂岩芳公庵主

左脇　後嵯峨院第一皇子
宗尊親王八代後胤上野四郎井田
小屋城主安中出羽守忠親

右脇

開基　旭渓院殿桂岩芳公庵主
永正三丙寅十月十七日
行年九十三歳

碑　桂昌寺ヨリ碑碣年長サ三尺三寸横幅三寸

碑ハ町田某ガ所造ニシ安中城後半倉大蔵殿知行ノ地間村桂昌寺ノ後山ニ在リ今モ二三度見ル

従三位伊賀守忠清　入道而角源ト号ス
上野四郎雄氷郡原市村榎下城ヲ大永五年丙寅六月
立テ住ス本城ニ勧請ス越後四郎米山薬師如来ヲ守護
神ハ智賀戸大明神建立ス八本木地蔵堂ヲ
清光院殿従三位入道前伊州大守樹林桂庵主
弘治三年丁巳十月十七日於上野四郎榎下城病死八十三此所ニ墓塔有
原市村久昌寺開基

忠清嫡子
越前守忠正
忠清死去後忠正同四野屋庭園書ヲ退ケ永禄
年間四月築城榎下城ヨリ引移ル野屋ヲ安中ニ改ム
角源廟所ヲ此所ニ移ス祈願所妙雲院菩提所
桂昌寺建立鬼門ニ熊野三社ヲ建立シテ為守護
神忠正後松井田小屋ニ住ス
甲斐国武田信玄ト合戦之時子息左近忠成安中ヘ
住ス以忠正了簡降参ス信玄ニ忠正ハ松井田屋敷ニ
打破降参ス忠正成以下天正五年九月廿日参州長篠ニテ
打死忠正成各自天全性大禅定門中秋間村全性寺
開基越前守忠正知行高五千四百三十四町餘騎馬
高百十八騎紋桐紋幕紋鸞鶴鳥

忠正二男
太郎左衛忠基
忠正打死之後出羽国ニ落ル寛永三年丙寅上野ニ
帰ル同五年戊辰十月廿二日百十三歳高崎ニテ病死
号中山喜安居士
安中三郎左衛門
（右忠基嫡子安中藩城後安中右京進重長ヘ済）
安中五郎左衛門
忠基二男安中藩城後
秋元摂津守高智ヘ済
安中通頼
忠基ニ馬場下ヲ死所保渡田村住居
右通頼ハ通頼中秋間村全性寺ヘ納ス
右系図書付一通安中志御編集ノ便ニ下ス
且理武和二借リテ写ス

○

小田天麁旗下之城々

此條岩雲寺治高
氏野入道三樂
真壁入道々夢
板東義濃守政景
行方刑部少輔貞久
五見中務
信田新宮守
菅谷左兵衛尉
一菅谷左兵衛尉正光藤原氏五郎左衛門ト戦ヒ終ニ菅谷勝利ヲ得今泉五郎左衛門ヲ殺害ス
海上主馬五郎
完戸四郎兵衛尉
由良信濃守
上曽野伊賀守
右ハ銘々十二ヶ城ノ城主ニ

此外極上持ノ旗下

筑波八郎
水守六郎民部
山木左衛
志筑左近
戸崎大膳
小見川新宮守
平出伊賀
江戸崎監物
鹿嶋新左衛門
横山弾正
土岐伊豆守
芳賀新兵
佐原又五郎
田代左衛
沼崎播磨
野中閑入道
岩田
小幡

筑波在城
水守ノ極上ニ在
山木ニ
志筑ニ
戸崎ニ
小見川ニ
田土辺ニ
佐原ニ
鹿嶋ニ
子子生ニ
部隊ニ
上ノ室ニ
金田
田代
沼崎
野中閑入道ニ
岩田ニ
小幡ニ

右手一人ハ銘々極上持ナリ

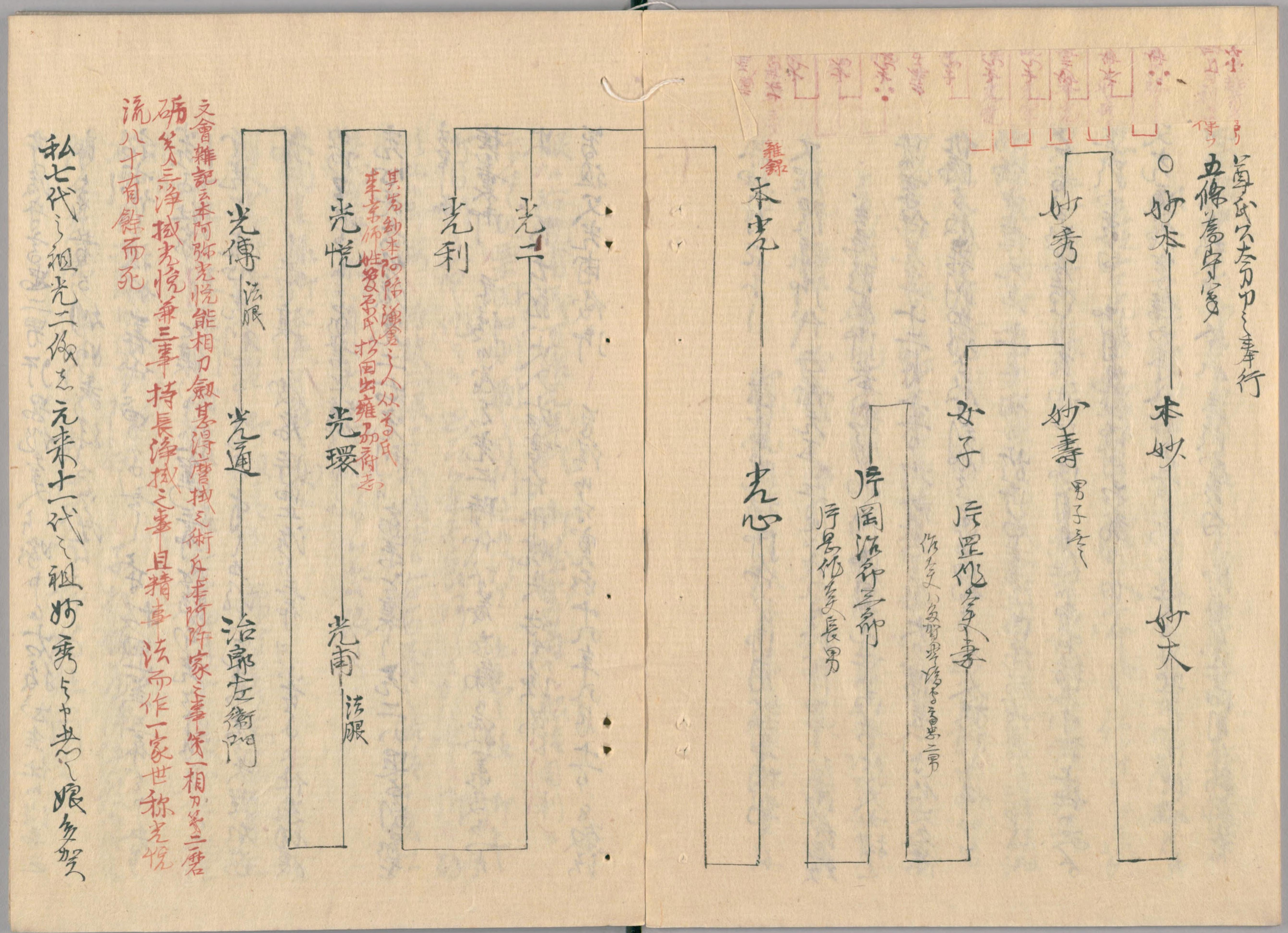
本阿弥次郎光徳ノ家傳

私家祖中興ノ祖本阿弥光二ト申者始テ俗名次郎三郎ト申ハ
数代家業ニ元祖妙本ノ八代目ニ本家光心次郎三郎ト賀茂
子ニ住居ス故本阿弥次郎左衛門ト申ス
本家ト本阿弥次郎ハ弟光心実子光利ト申者有ニ付光二相続
仕ル道院ニ而光利ニ譲リ渡シ光二ハ別家ニ相立申ス光利家節
ニ当世ハ本阿弥ハ下ニ当ル光二実父ニ行景俗名
ハ仙左衛門ト申賀茂ニ住居ス忠二男ニ而光祖妙秀舞ニ敬
ル而光二出生仕ル右光二次ニ左衛門ト称ス
相現極駿府今川義元ニ仕ル故駿府住
代々相続ス

[illegible]御道具御用[illegible]御服[illegible]毎度[illegible]相
伴[illegible]　御供[illegible]　御[illegible]義元[illegible]御服[illegible]
[illegible]光二仕駿州[illegible]国[illegible]御[illegible]七[illegible]
横[illegible]義元[illegible]光二[illegible]
擁現[illegible]駿府[illegible]御[illegible]
目御[illegible]光悦[illegible]光環[illegible]　御[illegible]　御[illegible]
別御[illegible]御[illegible]
環[illegible]料[illegible]刀一[illegible]
平右[illegible]御[illegible]
光二[illegible]光悦[illegible]元和五年[illegible]時[illegible]

[illegible]光悦[illegible]
年[illegible]駿府[illegible]
野[illegible]
[illegible]南北十町余[illegible]
[illegible]光悦村[illegible]
[illegible]延宝七年[illegible]
大蔵院[illegible]代寛永二年十一月[illegible]
[illegible]　御[illegible]用　御[illegible]　御[illegible]
大炊[illegible]御[illegible]
上意[illegible]

大内殿中ヶ殿御子孫ニ成ル　光宣為ル　光慎
教文ヲ学ブ　同極月御浄土ニ参ル　大炊頭
其ヲ先代古光宣為ル　遠祖之命ニ依テ作ル
アリ　此ノ時ハ毛紙数ニ付　上意ニ従ヒ書院
御目見ヲ仰付　自分お恩ノ毛紙数ニ付
知行年寄役ヲ以テ　四代ノ孫ニ当ル
御給ヲ以テ　光慎　長生仕長生仕天下
上意ヲ以テ　時勝ヲ以テ　御目見仕ル
二光慎光環　御代々　御目見仕ル　代目
病死ス　御目見仕ル　代目　光通　寛永十五
年四月死ス　常憲院様御代ニ　御用数年相勤ル
文昭院様御代ニ　元禄元年二月廿九日ニ　御白書院御縁類
ニ成ル　御目見仕ル　大小勤ル
仕ル　享保元年十二月十二日ニ　打焼ケ　大久保長門守殿ニ
依テ　殿様御出ニ成ル　刻ニ　享保
元年十月　初ノ　新御白書院御縁類ニ　人扶持ヲ仰付ル
参ル　歌屋ニ成ル　御目見仕ル　表ノ
年限ニ成ル　御用ニ相勤ル
又光通儀享保元年八月十六日病死仕ル　付跡年御扶持ヲ
ニ　成ル　新参ニ　今代年限ニ成ル　御目見仕ル　御用ニ相勤ル



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

尊氏公太刀ヲ奉行
五條為守家

小笠原越前守ヨリ刀劔ノ自利ノ傳ヲ

○妙本阿弥

本妙 — 妙秀

妙寿 — 本光

光心 — 光室

光温 — 光遠

光常

多摩子

光悦

光璡

光角

右高尚所輯三才雜錄藏焉

妙本 — 妙大

妙秀

妙寿 男子多シ

女子 庄四郎信秀妻

作笑い多賀琴清ヲ産ム二男

庄岡治郎三郎

庄長信秀長男

本光

光心

光一

光利

其先紀本阿弥清信ノ人仕ル氏
来京師姓変ル氏ヲ打田出雍加賀志

光悦

光環

光南 法眼

光傳 法眼

光通

治郎左衛門

文會雜記云本阿弥光悦能相刀劔其得磨拭之術及来阿弥家之事実一相伝之磨砥等之三浄拭光悦兼三事持長浄拭之事且精事法而作一家世称光悦流八十有餘而死

私七代ノ祖光二俗名元来十一代ノ祖妙秀ヲ中興ス娘多賀

安房守高忠二男所号伯耆守ニ嫁ス右後ニ出生仕治承三
郎ト号ス者ル初妻称ス
和十代ニ祖妙寿代ニ男子ニ子ト松田薬三郎ト号ス者リ
妻ニ仕家ノ一ト云フ薬三郎ト号ス後ハ光ト号ス
不光子光心光利ト号ス定子ニ者ニ出ル元来為ス妻ハ故故
第一ニ云フ儀リ廉郎所置治ニ郎ト仕ル領嫁
ノ内ノ男也ト号ル家業ヲ譲リ申ス
光心死去後光二右光利ト家系ヲ譲リ光二ハ退ル別家ヲ
ニ号ス
檜書御ノ系譜ニ光二時代ニ嘉永新撰系図及ル
次ノ云ク古記ニ次入右書ニ中焼失仕ル
第祖父光南俊御ノ系譜ニ寛永十八年ノ月十日ニ叙法
眼ニ右光南俊元年ニ御堂寿ニ服按目利ト
作ル処栗田口則國ニ目利仕ル好ル上意ニ御上ル
御目利ト右ニ俊ト号ス男ニ子ニ子ハ
修仕ル御勝ノ時服二限ル子ハ領仕ル右宮寿ニ服按ル後松
平加賀守殿ノ家ニ右ハ中絶ル家ニ後ル
大納言様御七夜ニ云ル勅ル
祖父光傳俊ハ新撰ル御法ル作ル云ル蒙ル年三年三
月十日ニ任長門守後ル治三年四月十日法印位叙法
橋ル
右御用和歌ル中所称ノ子ハ領御法後御光ル
作ル光除ル御孔ル戒仕ル今ル所称仕ル同名ノ

仁和寺に同名法隆寺孔雀経
元文四年四月十日右多仁和寺勝相院 摂国
十郡高殿大久保壬生寺殿
仁和寺同寺に同名阿弥陀家名跡に為指出
仁和寺領寺上私四月十日於焼失に付
仁和寺殿高野寺殿に所縁
道中掛に付て或足上下六人に付
京都お仕業十三州風雨寺に
仁和寺に所有刷仕
お仕業に付て宿仕
寛保三年八月廿八日に新焼失に付
度 摂津国 仁和寺同寺に
摂津国 仁和寺同寺に

四年四月十八日に通元年
私仕に内近小京都に新出来 摂津国
通元年十四年に新出来に
仁和寺に所有に光傳寺小病
に元文九年十月二日 仁和寺
貞宗に仁和寺刷に仕
浴刷私方に新出来
月 摂津国
延享二年二月右所に宗仁和寺刷
殿に新出来 摂津国
仁和寺刷に新出来
寛延二年五月廿日仁和寺指図に作

[illegible]

[illegible]

[illegible]

先祖紀伊國熊野出勢州関尾野村住人後同國領勢州
山田郡住

源良高　井坂與十郎
後服部藏人良直ト名乗
生國勢州長津村代々領之隣村騒動有之時者百
騎之武者速出之
指物之紋尾長鳥

高重　與左衛門　實與十郎安
後服部藏人良親ト名乗

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

良統　與十郎
水戸江三百石より出
良宛　十右衛門
勢州鈴鹿ニテ為父討死
吉内　弥左衛門
勢州朝明郡ニ住
女子　尾州山岡主馬妻

良計　金六郎
後服部圖書ト名乗
大坂表働之節者服部圖書ト云ヘ首二ツ之感状ニハ
井坂金大夫ト有之神戸與五郎騒動之節金六郎

同三六働有之間從関殿白木村給ル
芳吉　彌工衛門
関ヶ原ニテ討死
良永　古七郎
九亀殿　三百石ニテ出ル
良房　服部主馬
勢州朝明郡ニ住ス後青山大膳殿ニ出ル
通次　三六郎

良勝　十右衛門
大阪陣之節首二打取其外召捕者等之手柄数度

也　関家依滅兄弟共退散勢州尾野村ニ帰住
寛永六年三宅家ニ出ル

良次　角左衛門
良勝楠田将監ト喧嘩之節御代官佐野平兵衛殿ニ
願為兄切腹

良安　角十郎

井坂氏傳来関家古文書六通　并三宅家図一通

為御礼ニ参拝仕候様ニ被仰付
難有奉存候
三月十九日　勝
井坂三郎左衛門殿
二ツ打裏白

堅目録
知行方目録
参拝仕
右可知行者
長俊村

慶長六辛丑
九月十日　長門守一政
井坂三六郎殿
縮印

二ツ折裏白

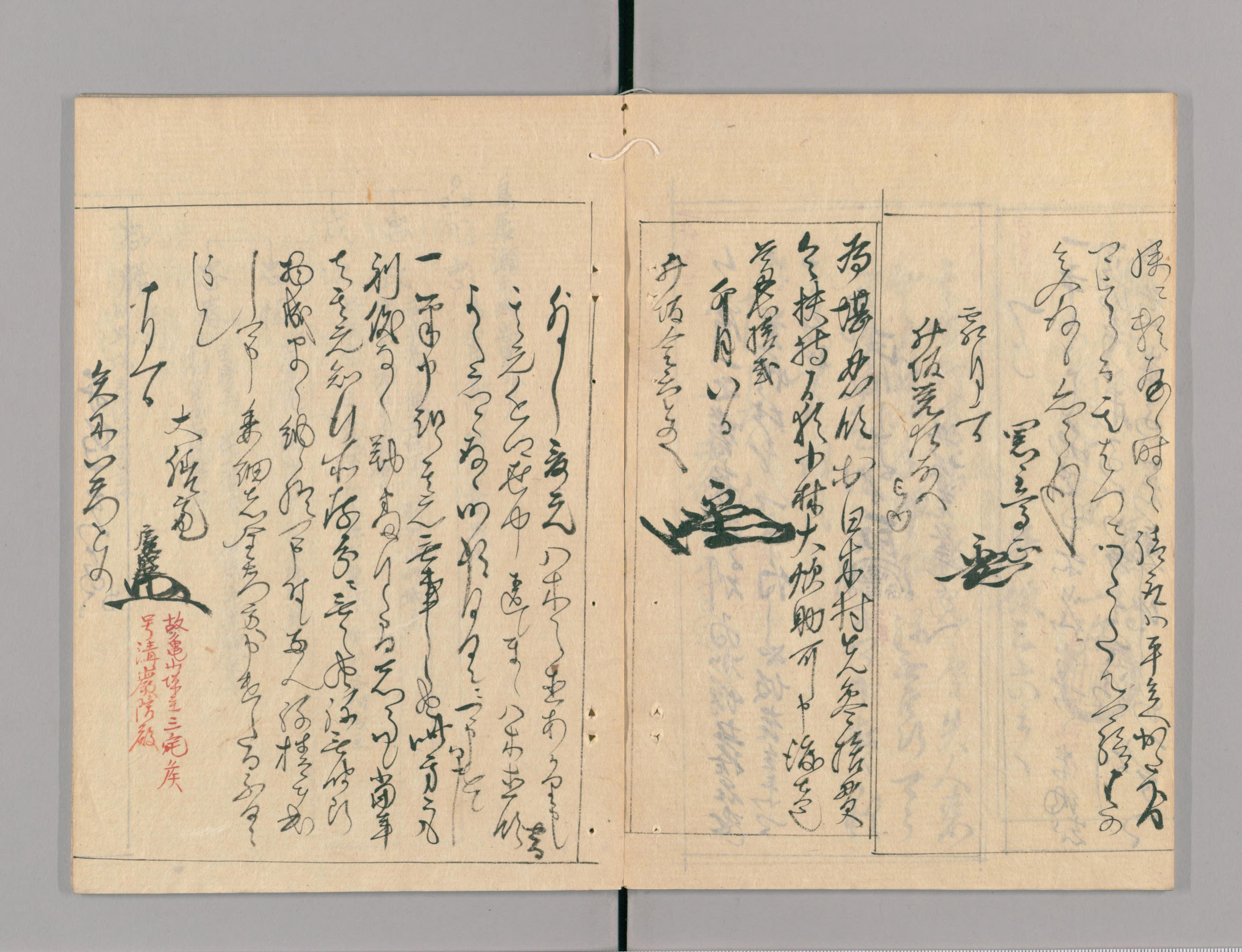
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
井坂[illegible]殿

[illegible]
ヨメガタシ

二ツ折裏白

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
井坂[illegible]殿

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



故亀山侯三宅氏
号清蒙院殿

鳥居瀬兵衛忠豊 水戸

元忠 鳥居彦右衛門 總州矢作城主

忠政 左京亮 従五位下 羽州山形城主
母 松平藤原寺家廣女

成次 土佐守 従五位下 子孫在幕下 甲州谷村城主

忠恒 左京亮 従四位下 子孫断絶

忠春 主膳正 従五位下 信州高遠城主
今伊賀守忠祝祖父也

忠勝 左近
母 馬場美濃守昌房女

忠頼　美濃守　従五位下　仕幕下
母同上

忠豊　瀬兵衛
母諏訪因幡守頼永女
浅野弟女　正長重家老大石内蔵允良昭妻
子　母同上
尾州家老渡邊嘉兵衛守治綱妻
子　母同上
治郎衛門　仕紀州頼宣卿
母同上　後稱鈴木寿仙其子浅右衛門
織田立計頼貞置妻
女子　母同上
大久保甚衛門長重妻
女子　母同上

女子　松平源兵衛近喜
母島津三郎衛門某女
藤田主膳貞固妻
女子　母同上
瀬兵衛
忠重　母同上
瀬兵衛
允旭　母織田貞置女
忠高　瀬兵衛
母富田小平太知宣女
忠隣　瀬兵衛　為兄忠高養子
母同上
忠隣　瀬兵衛　実父也

忠義 伯耆 寛永十年七月 清涼院殿山正白

忠重 三方ノ郷 寛文九年九月 佛日寺剃髪 号一渠宗道 無鹿後改盤 於信州伊那郡 没 法名 迂化

忠頼 美濃守 従五位下 仕幕下
母同上

忠豊 瀬兵衛
母諏訪因幡守頼永女

女子 浅野采女正長重家老大石内蔵介良昭妻
母同上

女子 尾州家老渡邊図書守治綱妻
母同上

忠治 治郎衛門 仕紀州頼宣卿
母同上 後稱鈴木寿仙其子浅方之事

女子 織田五計頭貞置妻
母同上

女子 大久保甚衛門長重妻
母同上

女子 松平源義信近妻
母島原三郎門其女

女子 藤田主膳貞固妻
母同上

忠重 瀬兵衛
母同上

元旭 瀬兵衛
母織田貞置女

忠高 鄙
母富田小平太知宣女

忠隣 瀬兵衛 烏兵忠高養子
母同上

忠隣 瀬兵衛 実父也

女子　結城七郎晴朗室　後佐藤八郎信教
母大弥陽之左衛門信高女
一元永
母吉野氏女
忠義　蒲冠
母　堀内氏女
女子　石原兵蔵正直妻
母　杉浦縫殿助政徳女
忠彰　彦右衛門
母　政徳養女　実小田原平勝義女
女子　高叔父忠篤養女
母大場弥右衛門維昌女
女子　戸塚門之允勝則妻
母同上

忠敬　新次郎　早世
母同上
忠篤　源三郎
母同上
某　子ノ助　早世
母同上
某　定次郎　早世
母同上
女子　奉仕梅御殿
母岡田新右衛門徳潤女
女子　増木新蔵貞之妻　実忠彰女也
某　彦三郎　早世
母同嫡女
某　沖之允　早世
母同上

女子　母　箕川氏

女子　母　鈴木貞吉室姉

鳥居瀬兵衛忠豊祖父ヲ彦右衛門平元忠ト云舊穂積姓ニ世々紀州ニ住ス高倉帝ノ時遠祖法眼道觀重氏熊野社ノ華表ヲ建ツ時ノ人呼テ鳥居道觀ト云是ヨリ世々鳥居ヲ以テ氏トス帝其功ヲ賞シテ平姓ヲ賜フ其子法橋行忠忠氏寿久亂ニ参加矢作荘渡里ニ住ク是於テ又氏ヲ改テ漆里傳内忠氏ト稱ス是ヨリ子孫両氏ヲ並稱ス忠氏十代ノ孫ヲ且利新左衛門忠景或ハ彦右衛門　芳孫ノ元亦建武ノ戰ニ新田義貞ニ従テ勇名アリト云

忠景ヨリ元忠ノ父伊賀守忠吉ニ至テ九代ナリ元忠毛州ニ住シテ　東照宮ニ奉仕ス永禄三年庚申正月尾州桶狭間元亀元年庚午江州姉川ニ三年壬申十二月参州箕形原

天正二年甲戌九月遠州濱松三年乙亥正月参州長篠同年小山城攻等ニ東照宮ニ従テ戰功アリ同年遠州諏訪原城攻ル時　命セラレ元忠城邊近ク至ル所ニ城中ヨリ放ツ所ノ鉄炮ニ左ノ股ヲ打通ヲレテ危ヤリシヲ家士杉浦藤八某ト云者扶ケ退ク其疵深手ニテ元忠一生足ノ病アリ故ニ　東照宮御免アリテ御前ニ於テモ足ヲ出ス座スト世四年丙子参州乾ノ城攻八年庚辰十月遠州高天神城攻九年辛巳九月駿州田中攻十年壬午甲州亂ニ至レリデ元忠ガ武功及首級ヲ獲ル事勝テ計ルニ不堪是年武田氏亡廢信長公諸將ニ領地ヲ分與ス信長公生害ノ後甲州一揆起リ神君御退治アリテ元忠ニ郡内四萬石ヲ賜フ甲州ニ留テ政務ヲ執シメ神君曰是偏ニ汝カ勇鋒ノ中ト此後モ度々一揆起ルトスルヲ元忠武威ヲ以テ國中ヲ定ム武時

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

神君甲州御進見ノ次元忠カ宅ニ臨給ヒ度々軍功賞
セラレテ種々ノ賜アリ元忠モ亦數種ヲ献ス十八年庚寅
武州岩槻城攻ニ元忠被群ノ働アリ其時
神君所賜ノ證文秀吉公ノ感狀アリ今嫡家ニ傳フ　是年
神君関東御入国元忠總州矢作ノ城主トナリ四万石賜テ
台德公元忠カ平日ノ武功ヲ感シ給テ官位ヲ賜フ事ヲ
命セラル元忠辭シ申ケルハ吾不才ニシテ　両君ノ恩惠ヲ
蒙リ忠烈ノ道ヲ不辭且參河譜代ノ者ニテ生質疎放
ナリ官位ニ拜シテ秀吉公ニ出仕ヲ遂ベキ器量ニアラス
トテ固ク辭シ奉リ一生無官ニシテ終シ　神君モ是ヲ
深ク感シ給フトモ長久年庚子　神君上杉景勝
退治ノタメ大坂ヨリ奥州御進發元忠伏見ノ城代ニ

命セラレ士卒ヲ率テ伏見ニ留ル後石田三成敵逆
ヲ企ツ其徒七月多勢ヲ以テ城ヲ攻ム元忠衆ヲ聚テ
講ヲナシ防戦ヲ決テ城堅固也然ニ同晦ノ夜拙ノ夜籠
ル所ノ深尾清十郎カ組ノ甲賀同心等返リ忠ニテ
敵兵ヲ誘入ル是ニ於テ拙ノ夜ヲ敗シテ猶ク攻カヽル
元忠勇武ヲ振テ戦フトイヘモ敵多勢ナレハコラヘ
難ク力盡テ城遂ニ陥ルトヲ又時ニ元忠敵兵ト太力打ニテ
終ニ雑賀孫市重朝カタメニ討ル時六十二歳従フ者
一人モ不殘戦死スト上事跡徳川家忠日記関原誌石川餘
史并ニ所傳ノ家譜ニ詳ナリ
元忠カ大功ヲ賞セラレテ男左京亮忠政ヲ羽州山形
ノ城主トナシ二十四万石ヲ賜ヒ次子土佐守政次ヲ甲州
谷村ノ城主トナシ三万五千石ヲ賜フ三男左近忠勝丹馬場文家寺
昌業カ女ナリ幼少ヨリ度々　東照宮及
台德公ニ謁スル

忠政ガ嫡左京亮忠恒若年ニシテ家督ヲ継ヲ以テ
命ニテ忠勝ヲ後見トナサシメ忠恒ガ領知ノ内ヲ賜
山形領ノ政務ヲ執ル後忠恒死テ養子ノ領ニ石宜ヲ
以テ領知ヲ召放ル忠恒カ父ヲ勝正忠春ニ三万石ヲ賜
フ故ニ忠勝浪人トナリ水戸ニ来テ男忠豊ト同居ス
寛文二年壬寅十月十五日死ス七十五歳 新田陽光頼永
カ女聚ラニ男ヲ生ム長ハ忠豊ナリ次ハ治部右衛門忠弘
紀伊頼宣卿ニ仕フ忠豊ハ父ノ由緒ヲ以テ寛永年中
威公ニ奉仕ス五百石ヲ賜テ正保年中 小性トナリ後取次役
拾式用 祭割
人ノ上 明暦三年丁酉三月大番頭トナリ三百石ヲ加フシ
テ八百石トナル與力ヲ附セラル 明暦三年 寛文元年辛丑八月廿五
義公御家智御禮ノ時 嚴有公ニ拜謁ス 十一年辛亥八月
肅公傳トナリ

同心ヲ附セラル天和元年辛酉正月十五日大寄合頭トナリ
家老ニ進セラル同心ヲ増シメ傳ヲ止ラル貞享四年丁卯九月
肅公ノ御参府ニ扈從スルヲ以テ 常憲公ニ謁ニ奉ル元禄五年
壬申三月十八日致仕ニテ壽軒ト號シ寶永五年戊子十月廿五日
死ス八十七歳 鳥居左近将監忠春ノ男 元禄五男伯耆忠春ノ男也
高里左近忠倫ノ住也
浪人カ女ヲ聚テ一男ヲ生ム
御子高忠重ト云

右鳥居系譜一巻借扱于水戸楓軒文庫子實
異時寛永元申年 鍬田氏借写畢

源姓
関口氏　家紋桐之頭
幕級桐之頭　　暦級九ニ引

一嫡祖　本国駿河
生国駿河

清和天皇世代
関口刑部大輔氏興

一今川治部大輔義元之妹聟ト相成築山殿ノ父ニテ
罡崎三郎様　加納姫君様之御外祖ニ而御坐ル

一二代目　駿州生

氏真実子ニ而
関口　外記氏幸

一三代目　仝

氏幸実子ニ而
関口弥六左衛門氏言

一隠居剃髪仕柔心ト相改メ関口流柔術之元祖ニ而
御座候

南龍院様ニ被　召出ル筈之処子細有之彼地ヲ去
加納姫君様御方ニ立退申ル　加納姫君様御遺
言ニ而御孫松平飛騨守殿ニ御呼出被成ル呼寄
被御死去ノ後由緒ニ付本多中斐守殿ニ御呼奉公
仕ル處存念有之又彼地ヲ立退好身ニ付大久保
彼招客分ニ而罷在ル処又ヽ彼地ヲ立退申ル
此段

南龍院様遺ニ御耳御内々ニ而被遊　召浪人分ニ而御会

金七拾五両ヅヽ被下置罷在ル右之通ニ付弥六左衛
門儀表立候御奉公ハ不仕候
一寛文十庚戌年三月七日病死仕候ニ付時年齢不知

四代目―生国播磨―氏心実子遺領
慶安四辛亥年生　　氏業　口八郎左衛門
水戸小宮山子実下ケ札上ニ氏言トアリコヽニ氏業トアルハ如何氏心ナレバ武藝小傳ノ通リナリ
南龍院様ニ被召出ル処兼應三甲午年ヨリ知藝修行存
念有之御國ヲ立退久ヽ他国ニ罷在候處
延寶元癸丑年十二月廿日　思召ヲ以帰参被仰付
藝能仕ル付知行三百石被下置御供番被仰付ル
天和二壬戌正月十日御使番被仰付候
貞享元甲子年七月六日御目付被仰付ル

同四丁卯年五月十三日御用人被仰付候
元禄三庚午年四月朔日寺社奉行被仰付候
同十丁丑年八月廿二日御小姓頭取仰付候
同年九月九日新御番頭被仰付御加増百石
被下置都合四百石被成下候
同十一戊寅年十二月廿八日御小姓組番頭被仰
付候
同十二己卯年五月三日御用部屋ニ相詰諸事御
用人ヶ相談可仕ル年罷寄ル付宿御番ハ御免
被遊御用ヶ節ハ毎ヶ罷出相勤可申旨被
仰付候

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同十三庚辰年三月廿三日御礼式ハ御供番頭仰被
仰付候
同十五壬午年四月十九日中奥ヲ相詰可申旨被
仰付候
同年七月廿九日年寄宮其工痛処有之ニ付知行
之内壱拾貫之通ヲ如何躰ニモ被 仰付被下置候
様ト兼々奉願趣被 聞召八郎左衛門儀久々相
勤ル者之儀ニ付隠居被 仰付知行四百石無相
違壱拾貫之通ヲ被下置寄合被 仰付候
同年八月十九日奉願別駕仕魯伯ト相改ル申候
正徳六丙申年四月廿三日病死仕ル于時八十一歳

合家
初代 畫橋摩 氏 心浄男
関口四右衛門氏英

萬治三庚子年十月日不知生
南龍院様ヲ被 召出為御合力金七拾五両被下置
番外ニ而相勤申候
寛文五乙巳年四月日不知 御切米百俵ヲ被下置大御番
一同九乙酉年九月日不知 地方三百五拾石被下置
延宝三乙卯年十二月日不知 御供番被 仰付候
同六申年九月日不知
宰相様方相勤ル申旨被 仰付候
天和三癸亥年十月日不知 病気ニ付当役難相勤候

孝願迄大御番被　仰付候
元禄元戊辰年十月御供番被　仰付候
同四辛未年六月日不知大御番組頭被　仰付候
寶永丙戌年四月廿日病死仕候　于時年齢不知
実子無領

二代目　生岡紀伊　　関口万右衛門氏一

元禄十五壬午年正月日不知部屋住之節被召出御
切米弐拾石被下置新御番被　仰付候
同十六癸未年三月日不知病気ニ付孝願御切米指
上申候
寶永元甲申年十二月日不知大御番被　仰付候
同三丙戌年五月日不知父万右衛門為家督知行
弐百五拾石被下置

同四丁亥年五月日不知家業相勤貞子取立仕候
様ニ被　仰付候御番御普請役　御免被成下候
享保三戊申年閏十月日不知御供番格被　仰付年
々金貳拾両宛被下置候
元文二丁巳年九月廿七日病死仕候　于時六子六歳

沈男　氏業養子　関口權兵衛氏連
三男　氏暁養子　関口萬次郎高房

三代目　生岡紀伊　　氏一実子　関口外記氏元

元文二丁巳年十一月日不知父万右衛門為跡目知行二
百石被下置大御番被　仰付候
延享三丙寅年八月日不知

勘解由様御警護仕御指南申上候
寛延三庚午年十月 知日不 御普請役 御免被成
下候
明和二乙酉年十月 知日不 知行被 召放十人扶持被
下置小普請入被 仰付候
同八辛卯年二月 知不 御加米五石被下置大番
被 仰付候
安永元壬辰年十二月 知日不 御番御普請役 御免
被成下指南被 仰付候
同九庚子年五月 知日不 勘解由平ヲ為家督御加米
四拾石之内三拾石被下置大御番被 仰付殘高十
石為隠居料被下置候

天明四甲辰年七月 惣庵紀伊 年六十四

四代目 書紀伊 氏元寛より為頂 隠ロ萬年氏記 佐方太郎

安永九庚子年五月 知日不 父外記為家督御加米
三拾石被下置大御書被 仰付候
同年六月 知日不 親外記三通貞子取扱ヲ以被 仰付候
寛政六甲寅年十月十八日 御加米被 召放十人扶持
被下置小普請入ヲ仰付候
同十二年庚申五月 知日不 御扶持被 召放在郷被遣
旨被 仰付候
享和二壬戌年七月 惣庵紀伊 年六十歳

當代
三男 閑ロ 万右衛門氏敬
閑ロ 弥太郎氏曉

寶文三癸卯年より知 小千人被 召出 拾石三人扶持
被下置候
當時関口六郎家ニ而出生
天保百年関口陸奥守殿御目付相勤中
小子
女子
陸奥守 宣清妻
和州郡山
磯野長左衛門 実名知 妻

五代目 生四紀伊

氏菅原長子民英次男
関口 権之丞氏連

元和四年未年閏八月廿五日 御小姓被 召出 中略
寶永二乙酉年十一月廿八日 親馬家 智寄合被仰
付知行四百石無相違被下置 中略
享保三戊申年閏十月十七日 小千人頭被 仰付
同十一年丙午二月十七日 新田番頭被 仰付
同十三年戊申二月三日 免代仕手時出家

六代目 生四紀伊

氏菅原長子実山田八郎兵衛
関口八郎左衛門氏辰

享保元丙申年六月三日 御小姓被 召出 中略
同十三年戊申二月十九日 御膳番被 仰付 御小姓第三拾石
其後 御小姓兼相勤申 処
大慧院様 思召以関口八郎左衛門名跡被仰付
寶暦五乙亥年五月十二日 百石高陸奥屋敷被下置 中略 願之通隠居被 仰付
同年六月十四日 寿願知覚仕手有ト相改申候

七代目 生紀伊

氏辰長子実平井茂左衛門次男
関口八郎左衛門應氏

寶暦五乙亥年九月十六日 右番頭家督相続 中略
明和八辛卯年十二月 御先手物頭ニ仰付
明和八年卯年二月十三日 御先手物頭ニ仰付

安永元壬辰年十二月十八日
候節駿州鞠子宿ニ而病死仕候子時年四歳

八代目　生田紀伊　[養子実弟実本村左兵衛実母田中氏]
[氏高橋実大高新左衛門実弟]
[陸奥国]　[陸奥]　[五郎]　[兵衛]

安永二癸巳年三月ニ為親ハ[illegible]高瀬目百姓右
被下置大御番相勤申[illegible]疎病ニ罷在難相勤
養子ニ義孝願ノ通大高新左衛門実男大高新左衛
ヲ養子被仰付候
同八己未年七月ニ為孝願陸奥国被仰付右
ニ付御仕来ニ拾石御弾正被仰付
拾石高陸奥国ニ被下置知行武

九代目　生田紀伊　[氏高橋実大高新左衛門実弟]
[陸奥]　[弥左衛門]　[暁氏]

安永八己未年七月ニ為親ハ孝高家督御仕
来ニ拾石ニ而大御番ニ被仰付

天明八年申二月十[illegible]
[illegible]
寛政五癸丑年十月ニ為[illegible]十里外御改易被仰付
宇治九家ニ而屋敷[illegible]
不知左弥左衛門[illegible]改易ニ仰付ル節指ニ[illegible]
享和元辛酉年七月廿[illegible]
絶代

紀州分限帳ニ御留守居拾領ニ名[illegible]
大御番組頭　関口八郎右衛門

右関口家譜一巻紀州藩村田氏伝写

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

838
297
116

○

蒲生氏郷代々

蒲生飛騨守 十二万五千石 天文廿子年より元亀二年迄廿一年在城

同 [illegible] 天正十三年より天正十五年迄十五年在城

同 左兵衛督 天正十五年より慶長元甲申年迄十七年在城

秀行 慶長元甲申年より元和二乙卯年迄廿年在城

秀隆 丹後守忠郎 寛永十六年より十六年迄三年

同 丹後守忠郎 寛永十六年より寛永廿年迄五年

右年号改元四度所謂正保四年 寛永四年 第三年

明暦三年

打下民部少輔 植綱 三万石 二千石 同伊豫守 秀植 元和元乙卯年より

十三年 但馬守 数道 七万五千石 時之宮 元和二年三月迄

三年 同 息 相模守 信興 改道時之宮 元和二年 信興 三月迄

相模守 信興 三万三千石 天和二年 三月より貞享四年迄

出羽 相模守 改道 九万五千石 貞享四丁卯年より 貞享四己巳年 元禄二年迄

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用